

## 第17回 富山医科薬科大学血管懇話会(抄録)

日時 1990年10月16日(火)

場所 富山医科薬科大学第2カンファレンスルーム

### アミロイドーシスの発症機構

金沢大学がん研究所

分子免疫部教授

右田 俊 介

アミロイドーシス(ア症)には原発、続発、遺伝、全身、局所性などさまざまあって、前駆蛋白が相違するが、コンゴーレッド複屈折という共通性は蛋白化学から $\beta$ 構造の線維形成と一括される。その中の遺伝性ではプレアルブリンの1アミノ酸置換による。しかし<sup>30</sup>M, <sup>60</sup>A, <sup>77</sup>Y, <sup>84</sup>S, <sup>122</sup>Iなどの置換が皆ア症をおこす理由も不明であった。著者はこれらの異

常血清を SDS-PAGE すると、正常より低い SDS 濃度で4量体が解離し、SS結合による重合がおこることを確かめた。これは正常では4量体が安定で<sup>10</sup>Cはフリー Cys であるが、1アミノ酸置換によって、程度の差があるが4量体間の結合が弱くなり、分子運動によりSS結合して安定な $\beta$ 構造の線維形成をすると考えられた。本来 $\beta$ 構造の球状蛋白が線維化するのとはこのほか免疫グロブリンL鎖、 $\beta_2$ ミクログロブリンの例がある。SAA, apoA1,  $\beta$ 蛋白, シスタチンなどでは酵素分解による分解物が $\beta$ 構造をとって重合するやや複雑な例であろう。

## 第1回 富山医科薬科大学国際保健医療セミナー(題名)

日時 1990年12月1日(出)

会場 富山医科薬科大学講義棟大講義室

### 1. 医療国際協力と富山医科薬科大学

富山国際大学学長 佐々 学

### 2. 中南米における住血吸虫症と肺吸虫症の調査

東大医科研・寄生虫 小島 荘 明

### 3. ソロモン諸島におけるマラリア対策にかかわって

富山医薬大・寄生虫 岡 沢 孝 雄

### 4. インドネシア・スラウェシ島における寄生虫病と蚊の調査

富山医薬大・寄生虫 荒 川 良

### 5. 英国におけるマラリア原虫の発育に関する研究

名古屋大・医動物 川 本 文 彦

### 6. マラリア原虫の蚊体内における発育と組織培養

富山医薬大・院生 Syafuruddin

### 7. パキスタンにおける蚊調査と熱帯熱マラリアの自験例

富山医薬大・寄生虫 上 村 清  
中 村 正 聡

### 8. フィリピンでの医療奉仕活動に参加して

富山医薬大・M5生 豊 泉 清 美